

# にとう 2頭のヤギが あらそ 争いを かい けつ 解決する

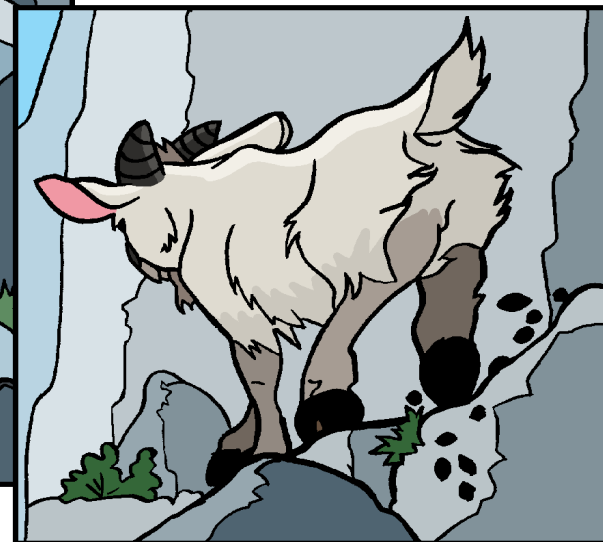


にとう 2頭のヤギが、せまい  
やまみち ある 山道を歩いていた。

いっとう やまみち のほ  
1頭は、山道を登っていた。

いっとう やまみち くだ  
もう1頭は、山道を下ってきた。

やまみち いちど いっとう  
山道は、1度に1頭しか  
とお 通れないほどせまかった。  
つまり、すれちがうことは  
できないということだ。



さあ、<sup>にとう</sup>2頭は どうしたら いいだろう？



<sup>にとう</sup>2頭とも <sup>あと</sup>後ずさりして、<sup>と</sup>たがい <sup>と</sup>飛びかかろうと  
<sup>がま</sup>構えているかのようだった！



ところが、<sup>め</sup>目 <sup>み</sup>を見張るようなことが <sup>お</sup>起こった！  
<sup>やまみち</sup>山道を <sup>のほ</sup>登っていた ヤギの <sup>み</sup>ほうが、<sup>み</sup>身を <sup>ふ</sup>ふせたのだ。



そして、<sup>やまみち</sup>山道を <sup>くだ</sup>下って来た <sup>き</sup>ほうの ヤギに、  
<sup>じぶん</sup>自分の <sup>うえ</sup>上を <sup>ある</sup>歩いて <sup>とお</sup>通らせたのだった。



その後 ヤギは <sup>あと</sup>起き上がり、<sup>お</sup>山道を <sup>あ</sup>登り続けたんだよ。

争いはしばしば、<sup>あらそ</sup>たがいが <sup>じぶん</sup>自分の <sup>かんが</sup>考えをおし通したがるために <sup>おこ</sup>起こる。  
こういう時は、立ち止まって、相手の人の言いたいことについてよく考えて  
みる <sup>たいせつ</sup>ことが <sup>だいじ</sup>大切だ。例の <sup>にとう</sup>2頭の <sup>やぎ</sup>ヤギのように、たとえば、どちらも自分の  
意見を <sup>いけん</sup>完全に <sup>と</sup>取り下げて相手の <sup>のぞ</sup>望み通りに <sup>とお</sup>させるわけでもないとしても、  
へりくだって相手の意見に <sup>あいて</sup>耳を <sup>いけん</sup>かたむけることは、<sup>たいせつ</sup>大切なことなんだ。

そうすることによって、しばしば <sup>りようほう</sup>両方が <sup>まんぞく</sup>満足できるような <sup>かいけつさく</sup>解決策が見つ  
かったりするものだ。たとえば、言い争いを <sup>い</sup>治めるために <sup>あらそ</sup>どちらかが <sup>おさ</sup>他方の  
意見に <sup>いけん</sup>ゆずる <sup>ひつよう</sup>必要があったとしても、<sup>ものごと</sup>物事が <sup>すす</sup>進むことには <sup>まんぞく</sup>満足できるだろう。

意見の <sup>いけん</sup>食いちがいは、とても <sup>こんなん</sup>困難な <sup>え</sup>ことにも <sup>た</sup>なり得る。だが <sup>ただ</sup>正しいが

よりも、<sup>なに</sup>何が <sup>ただ</sup>正しいが、<sup>ひつよう</sup>たがいの <sup>なに</sup>必要は <sup>かんが</sup>何かを、<sup>ひつよう</sup>もっと <sup>かんが</sup>考える <sup>ひつよう</sup>必要がある。しばしば、  
<sup>りようほう</sup>両方の <sup>いけん</sup>意見には <sup>りてん</sup>それぞれ <sup>りてん</sup>利点があるものだ。だから、<sup>かんけい</sup>関係ある <sup>ひと</sup>人達同士が <sup>はな</sup>話し合っ  
<sup>かいけつさく</sup>て、<sup>み</sup>解決策 <sup>さいぜん</sup>を見つけるのが <sup>さいぜん</sup>最善なんだ。

「<sup>やわ</sup>柔らかな <sup>う</sup>受け答えは <sup>いきどお</sup>憤りを <sup>しず</sup>鎮め、<sup>きず</sup>傷つける <sup>ことば</sup>言葉は <sup>いら</sup>怒りを <sup>あお</sup>あおる。」  
(<sup>せいしよ</sup>聖書協会共同訳聖書、<sup>しんげん</sup>箴言 15:1)

「わが <sup>いわ</sup>岩、わが <sup>あ</sup>あがないぬしなる <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>どう</sup>どうか、<sup>わ</sup>わたしの <sup>くち</sup>口の <sup>ことば</sup>言葉と、<sup>こころ</sup>心の <sup>おも</sup>思いが  
<sup>あなた</sup>あなたの <sup>まえ</sup>前に <sup>よろこ</sup>喜ばれますように。」(口語訳聖書、詩篇 19:14)

へりくだって <sup>おも</sup>たがいを <sup>はな</sup>思いやり、<sup>あ</sup>話し合い、<sup>いの</sup>祈れば、<sup>あらそ</sup>どんな <sup>かいけつ</sup>争いも <sup>え</sup>解決できるだろう。

